



# Arai News

## レーシングヘルメットと 衝撃

写真Aは、4月19日の日本GPノービス25でエンジン焼付のため転倒した森口一也選手(兵庫)の75レーシングです。後頭部の下の方をモロに打ったけど、全治2週間のムチ打ちで済んだそうです。でも、あの丈夫な75レーシングが8cmもワレるぐらいなすごい衝撃です。こんな衝撃をフチの近くに受ける事、実際にあるんです。超一流のライダーには、ヘルメットは出来るだけ小さく、軽くし、性能はギリギリでいいという人もいます。たしかにそういう人は身のこなしが違うから、ヘルメットもそんなので充分なのかも知れません。でもそういう人は何人いるんですか？ヘルメットはそういう人だけがかぶるんじゃないんです。そんな言葉をまに受けて75レーシングを作ってたなら、森口選手は2週間のムチ打ちじゃすまなかったと思いますよ！ヘルメットの后端は短かいのが安全というメーカーもあります。でも森口選手の場合、75レーシングの后端があと3cm短かかったら、まず無理だったでしょう。写真Bは、55年9月21日FISCOのノービス125で事故に遭った小沢修選手(甲府)のcLeRX-7です。軽い脳シントウですんだそうですが、左側のフチから4cm位の所のすごい傷は、多分ステップがフチ当たったんでしょう。もしRX-7がすその方までし

かり出来てなかったら、ステップがそのままつきささってたかも知れません。だから、いつも言うんじゃないけど、テストされる上の方だけじゃなく、下の方までしっかり出来てなきゃいけないんです。規格ギリギリの性能におさえ、すその方を薄く作れば軽く出来るの

で、それをセールスポイントにする。それも、一つの手でしょう。でも、いつもこんな事故例を見てるAraiにはそれは出来ません。ヘリ

を押えるとフニャフニャするよう

なヘルメッ



トは作れない。

それが人情です。cLeRX-7や75レーシングだって絶対じゃない。それだけにレベルを下げるわけにはいかないんですけども、安全性を保ちながら軽くする研究は続けてます。御理解下さい。所で、安全にヘルメットを軽くする方法が一つあります。皆さん、首を鍛えて下さい。ヘルメット確実に軽くなりますよ！

㈱新井広武 〒330埼玉県大宮市東町2-12  
☎0486(41)3825~7

- アライについてのお問い合わせは、質問事項、お名前、電話番号、それと在宅時間をお知らせ下さい。お電話さしあげます。
- カタログご希望の方は、切手70円分同封の上お申しつけください。